公表日：令和 8 年 10 月 29 日(木)

今年度の糸賀一雄記念賞および糸賀一雄記念未来賞の受賞者が決定しました。

公益財団法人糸賀一雄記念財団では、故糸賀一雄氏の思想や取り組みを新しい目で見直し、障害者やその家族が安心して生活できる福祉社会の実現に寄与することを目的として、障害福祉などの分野で顕著な活躍をされている個人・団体に「糸賀一雄記念賞」を、障害者または障害者と同様に社会的障壁による「生きづらさ」がある人に関する取り組みが先進的であり、今後の活躍が期待される個人・団体に「糸賀一雄記念未来賞」を授与しています。

以下のとおり、令和８年度の受賞者が決定し、授賞式を開催します。

１．受賞者の決定について（詳細は別紙のとおり）

〇第２８回糸賀一雄記念賞

・片岡　保憲　氏

（高知県高知市：特定非営利活動法人 脳損傷友の会高知青い空理事長
特定非営利活動法人 日本高次脳機能障害友の会理事長）

・社会福祉法人 いわみ福祉会

（島根県浜田市：理事長　室崎富恵）

〇第１２回糸賀一雄記念未来賞

・杉之原　千里　氏

（滋賀県近江八幡市：株式会社ＴＡＮＥＢＩ代表取締役）

・認定特定非営利活動法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システム　をつくる会　相馬広域こころのケアセンターなごみ

（福島県相馬市：センター長　米倉一磨）

２．授賞式の開催について

・開 催 日 時：令和８年１１月２８日（土）
午後２時から午後４時３０分まで

・開 催 場 所：ホテルニューオウミ　会場：おうみ中の間（二階）
（滋賀県近江八幡市鷹飼町 1481　0748-36-6666）

・プログラム：13:30～14:00　受付
14:00～15:00　表彰式
15:00～16:30　受賞者記念スピーチ

※授賞式の模様を、後日配信する予定です。
詳細は、財団ホームページ(http://www.itogazaidan.jp/)にて、
お知らせします。

財団HP

第 28 回 糸賀一雄記念賞　受賞者・団体紹介

片岡　保憲　氏 （高知県高知市）



■経歴

1978 年　高知県生まれ。
自身の弟が事故にあい高次脳機能障害を持ったことを機に、当事者と家族が抱える困難に深く向き合うようになる。理学療法士として脳損傷した患者の治療や臨床研究に取り組む等、臨床と研究の両面から高次脳機能障害への理解を深める。

2014 年　NPO 法人脳損傷友の会高知青い空理事長に就任。

2020 年　NPO 法人日本高次脳機能障害友の会理事長に就任。
厚生労働科学研究の研究協力者や第 5 期内閣府障害者政策委員会委員を歴任するなど、当事者・家族の視点と専門職としての知見双方を活かし、障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現に向けて国の施策や支援体制の充実に尽力している。

■活動内容

・地元高知県において脳機能障害当事者会・家族会活動の充実に取り組むとともに、全国各地の当事者会・家族会との連携を進め、当事者・家族が孤立しないためのネットワークづくりに尽力してきた。
・高次脳機能障害はあらゆる場面に影響を及ぼす障害であるとの認識のもと、医療、福祉、教育、就労、司法など多分野の関係者との連携を積極的に進め、一貫して「地域全体で支える仕組み」の必要性を訴え続けるとともに、当事者や家族が支援を受けるだけの存在ではなく、自ら社会を変える主体として活動できるよう支援をしている。
・当事者と家族が安心して地域で暮らせるための法制度の必要性を訴え続け、日本高次脳機能障害友の会の理事長として高次脳機能障害者支援法の制定に向けた機運醸成に尽力された。

これまで埋もれていた脳の高次機能障害に光をあてられた功績は大変大きく、これまでからの継続した取組が高次脳機能障害者支援法の制定に結びつきました。今後、法律の理念が確実に全国各地の支援体制に反映され、どこに住んでいても必要な支援が受けられる環境となるよう、全国ネットワークを活かした一層の活躍が期待されるとして、糸賀一雄記念賞の受賞となりました。

第 28 回 糸 賀 一 雄 記 念 賞　受 賞 者 ・ 団 体 紹 介

社会福祉法人いわみ福祉会 （島根県浜田市）





■活動歴

1973 年　知的障がいのある子を持つ親たちが 1 万人署名活動や募金活動を展開し、社会福祉法人いわみ福祉会を設立。

1974 年　知的障がい者入所更生施設「桑の木園」開設。法人理念は「ごくごく当たり前の生活を奪うことなく人としての尊厳にふさわしいサービスを」。

1970 年代後半からグループホームの先駆けとなる民間ホームなど当時制度になかった地域生活支援を開始。以降も順次、就労支援、児童福祉事業、高齢者福祉事業等へと活動領域を拡大。

現在は浜田市、江津市を中心に障がい者福祉・高齢者福祉・児童福祉を総合的に展開中。

■活動内容

・浜田市、江津市を中心に障害者支援施設、障害児入所施設、グループホーム、就労支援事業、養護老人ホーム、特別養護老人ホームなど約 40 に及ぶ事業を展開し、総合福祉法人として活動を行っている。

・中でも、地域の伝統芸能「石見神楽」と福祉を結びつけ、障がいのある人が代表演目である大蛇（おろち）の製作（和紙作り、大蛇の胴・頭）や神楽衣装、神楽面の制作に携わる就労支援の取組は、高度な技術を要する伝統芸能分野に新たな働く場を創出するとともに石見神楽の継承と地域産業振興にも大きく貢献するユニークな取組として全国的に注目されている。また、1985 年頃に余暇活動支援から始まった神楽上演活動は、現在では障がいのある方の表現活動、文化芸術活動として国内外で多数上演する機会を得るに至っている。

・乗馬施設（指定管理）を活用し、ホースセラピーを取り入れた就労支援・放課後等デイサービスで独創的な取り組みを行うとともに、地元の社会復帰促進センターが行う受刑者更生支援の教育プログラム「馬とふれあう　動物介在プログラム」にもスタッフ派遣するなどしている。

地域の特性を活かし、地域に密着した活動を長きにわたり地道に続けておられること、また障がい者の就労支援と地域の文化継承を組み合わせた独創的な福祉実践は先駆的であり、これら実践は他の社会福祉法人や福祉事業所の模範となる取組として先導的役割を果たされているとともに、今後一層の活躍が期待されるとして、糸賀一雄記念賞の受賞となりました。

第１２回糸賀一雄記念未来賞 受賞者・団体紹介

杉之原　千里　氏（滋賀県近江八幡市）





■略歴

1973年　滋賀県生まれ。
重度身体障害のある兄とともに育ち、幼少期から「違いは特別なことではなく当たり前」という価値観を育む。

2003年　身体障害のある夫と結婚。我が子3人の不登校を体験。特に自閉症・場面緘黙・不安障害の娘との歩みを通じ、「社会に人を合わせる」のではなく「一人ひとりの特性に合わせて社会との接点を設計する」という考え方を実践する。

2020年　12歳の娘と「みいちゃんのお菓子工房」を開業。

2025年　株式会社ＴＡＮＥＢＩ設立。

2026年　障害・不登校・引きこもりなどのハンデがある若者が、自ら事業主となる道も含め、自分の「好き」や「得意」を活かした働き方に挑戦するコミュニティ「TANEBI STORY」を開講。
障害者と健常者を分ける社会ではなく、1人ひとりの特性が活かされる社会の実現を目指し、講演・執筆・プロデュース活動を展開中。

■活動内容

・障害を持つ自身の子が福祉的就労や障害者雇用という「既にある枠組みに本人を合わせる」道でなく、本人が事業主となる道を選択するなど、障害を克服するのではなくその特性そのものを強みとして生かすビジネスモデルを構築した。
・障害のある本人が事業主になることを支援する枠組み、福祉でも教育でもない「第3の道」を支援する事業として会員制プログラム「TANEBI STORY」を開講し、開講から3か月で54名が参加され、現在起業への伴走を行っている。

障害の特性も個性の一つと捉え、障害当事者が事業主となる支援をする取り組みは大変先進的であるとともに、株式会社というこれまでにない形態での新規性のある取り組みであり、今後ますますの活躍が期待されるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。

第１２回糸賀一雄記念未来賞 受賞者・団体紹介

認定特定非営利活動法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
相馬広域こころのケアセンターなごみ （福島県相馬市）





■活動歴

2011 年　11 月、東日本大震災および東京電力福島第一原発事故によって深刻な被害を受けた相双地域において、大きく損なわれた地域の精神保健・福祉基盤の再構築を目指し、「NPO 法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」を設立。
2012 年　被災者と地域住民の心の健康を支えるために「相馬広域こころのケアセンターなごみ」を開設。
2019 年　認定 NPO 法人に認定。

■活動内容

・震災直後から仮設住宅や借り上げ住宅への全戸訪問、サロン活動などを通じて、孤立・ストレス・不安を抱える被災者に寄り添い、生活再建と心の回復を支援。制度や医療に繋がりにくい人々に対し、看護師、精神保健福祉士など多職種の専門職チームが地域へ出向くアウトリーチ支援を展開し、支援の空白を埋める役割を果たしてきた。
・2026 年、震災から 15 年を経て、現在はＰＴＳＤに苦しむ震災被災者支援に加え、精神疾患、ひきこもり、家族支援、子どものメンタルヘルス、アルコール問題など幅広い相談に対応するなど、震災後の長期的な復興過程の中で、住民と医療・保健・福祉機関を結ぶ「地域のセーフティネット」として機能し続け、相双地域における精神保健体制の再生と持続的な地域づくりに大きく貢献している。

災害時から災害後のメンタルケアの実践は重要な取組であり、災害後のアウトリーチ支援の見本となる取組を現在も継続して実践し続けておられる。全国の地域福祉や災害支援の模範となる取組であることが評価され、また、今後一層の活躍が期待されるとして、糸賀一雄記念未来賞の受賞となりました。

【参考１】

糸賀一雄記念賞・糸賀一雄記念未来賞の概要

	糸賀一雄記念賞	糸賀一雄記念未来賞
候補者の資格	日本において、障害者などの「生きづらさ」がある人に対する実践活動に長く取り組み、その活動が高く評価され一層の活躍が期待される個人および団体	国内で活動し、福祉、教育、医療、労働、経済、文化、スポーツなどの分野における障害者または障害者と同様に社会的障壁による「生きづらさ」がある人に関する取組が先進的であり、今後一層の活躍が期待される個人および団体
募集期間	令和８年６月１日～令和８年７月３１日	
表彰内容	受賞者（個人または団体）に賞状および副賞５０万円を授与（２件以内）	受賞者（個人または団体）に賞状および副賞１０万円を授与（２件以内）
選考方法	今年度の応募者 19 件（個人 7、団体 12）の中から選考委員会が選考し、理事会の議決を得て決定	今年度の応募者 18 件（個人 8、団体 10）の中から選考委員会が選考し、理事会の議決を得て決定
選考委員会および理事会	選考委員会での選考日：令和８年８月２６日 理事会議決日：令和８年９月２４日	

【参考２】

第２８回糸賀一雄記念賞・第１２回糸賀一雄記念未来賞選考委員名簿

氏　　名	現　　職　　名
京極　髙宣	（社福）浴風会 名誉理事長
大熊由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授
田仲　教泰	（社福）全国社会福祉協議会 常務理事
福島　　智	東京大学 先端科学技術研究センター 教授
吉武　民樹	川村学園女子大学 名誉教授
岸本　織江	滋賀県副知事

【参考３】

糸賀一雄氏の略歴



大正３年３月２９日、鳥取市に生まれる。

昭和１３年３月、京都帝国大学文学部哲学科を卒業した後、昭和１５年１月、滋賀県庁に奉職し、秘書課長などを歴任する。

昭和２１年１１月、戦後の混乱期の中で池田太郎、田村一二両氏の懇請を受け、知的障害児等の入所・教育・医療を行う「近江学園」を創設し、園長となる。

以来、あらゆる困苦と戦いながら、学園の充実を図るとともに、西日本で最初の重症心身障害児施設「びわこ学園」を設立するなど、多くの施設建設を手がけるとともに、中央児童福祉審議会・精神薄弱者福祉審議会の委員や全国精神薄弱児育成会（現・全国手をつなぐ育成会連合会）の理事として、国の制度づくりにも尽力する。

また、「障害の早期発見、早期対応」のための乳幼児検診システムの確立に寄与するとともに、多くの指導者を養成し全国に送り出すなど、我が国の障害者福祉の基礎づくりに多大な業績を残している。

これらの取り組みにおいては、重度の障害児であっても、人間としての生命の展開を支えることが重要であるとの理念のもとに、「この子らに世の光を」ではなく、「この子らを世の光に」と唱え、人間の新しい価値観の創造を目指した人権尊重の福祉の取り組みを展開し、その精神は、現在もなお我が国の多くの福祉関係者に受け継がれている。

昭和４３年９月１７日、滋賀県児童福祉施設等新任職員研修の講義中に倒れ、翌１８日に死去する。

主たる著書に、「この子らを世の光に」、「愛と共感の教育」、「勉強のない国」、「精神薄弱児の職業教育」、「精薄児の実態と課題」、「福祉の思想」などがある。

【参考４】

公益財団法人 糸賀一雄記念財団

近江学園創立５０周年を節目に、障害福祉の分野で生涯を捧げられた糸賀一雄氏の思想・取組みを新しい目で見直し、次代に引き継ぐ取組みを進めるため、1996 年に設立。

糸賀一雄氏の心を受け継ぎ、障害者福祉の向上に関する各種事業を行うことにより、今後の滋賀の福祉の発展およびそれを支える人材の育成ならびに障害者に対する地域住民各層の理解と協力を促進し、もって障害者やその家族が生涯にわたり安心して生活することができる福祉社会の実現に寄与することを目的とする。

（所在地：滋賀県草津市笠山七丁目 8 番 138 号　滋賀県立長寿社会福祉センター内）